

申請及び研究計画書記載前の注意書

1. 京都学・歴彩館の受入事業は、海外若手研究員の方に当館に来ていただいて、京都研究・日本研究に係る自らの研究テーマを、ご自身で自立して研究いただくことを基本としております。当館のプロジェクト研究の一員として招聘するものではなく、当館研究者の指導の下に特定研究に参加していただくものではありません。また、日常的に教員が研究員の側で研究テーマについて指導するものではありません。
 2. 京都学・歴彩館では、館の前身である京都府立総合資料館が50年以上にわたり収集・所蔵してきた京都に関する図書、古文書、行政文書、写真資料など約74万点に加え、京都府立大学・京都府立医科大学附属図書館の所蔵図書約20万冊・学術雑誌等約2,000種を閲覧いただけます。<http://www.pref.kyoto.jp/rekisaikan/>
当館は、京都の歴史や文化研究に欠くことのできない国宝を含む貴重な資料を豊富に所蔵する日本有数の施設で、研究に際しては、これらの資料を活用いただくことが期待されます。但し、古文書や古典籍等を含む日本語資料が殆どで、外国語資料は限られています。
 3. 上記のような環境のもとで、研究に従事いただくため、日本語で自ら研究活動を行っていただくことが受入の前提となります。(通訳・翻訳者の用意はございません。)
 4. 京都学・歴彩館で研究いただくに際し、既に以前から指導を受けておられる教員、既にコンタクトをとっておられる指導教員・サポート教員がおられる場合は、研究計画書の所定欄に、その教員の情報を記載してください。
 5. また、新たにサポート教員を希望される場合は、所定欄にその情報を記載してください。京都学・歴彩館は、事業協力校である京都府立大学（京都学・歴彩館に隣接）の協力を得て、必要に応じてサポート教員を定めます。サポート教員は日常的に研究指導を行う者ではありませんが、適宜、研究者や文献の紹介などのアドバイスを行います。
 6. 京都府立大学に在籍する教員については、大学HP掲載の教員リスト・各研究室研究者情報を予め必要に応じて御確認願います。<https://www.kpu.ac.jp/>
- ※ 採択された場合でも、サポート教員や受入期間については、必ずしも御希望どおりになるとは限らないことを予めご了承ください。